



図書館員のおすすめ本



小学生

低学年（1・2年生向け）



・『みんなすてき！』

レオ・ティマース/作・絵
かきうちいそこ/訳/フレーベル館

【内容紹介】

みんなとなかよくしたいのに、こわがられてしまうカラスくん。よし！みんなと同じ色に変身！その姿を見た他の鳥たちは…！？

【図書館員からのコメント】

ともだちになろうと頑張るカラスのクローを応援してあげたくなると同時に、自分は自分でいいのだと肯定してもらえる一冊です。

中学生



・『本について授業をはじめます』

永江 朗：著/少年写真新聞社

【内容紹介】

本は、どこから来たのだろうか？ぼくらの手元に本がとどくまで、そして本の歴史と未来について考える、「本について」の本。

【図書館員からのコメント】

当たり前のように手に取っている本が、どのようにして手元に届いているのか…身近にあるものに興味を持つきっかけになります。また、未来の本についての記述は、実現を期待したくなりました。

中学年（3・4年生向け）



・『らくごでことわざ笑辞典』

作：齊藤洋 絵：陣崎草子/偕成社

【内容紹介】

今回はことわざにまつわる、おもしろいおはなし！「犬も歩けば棒にあたる」「二階から目ぐすり」「月夜に釜をぬかれる」「なさは人のためならず」の4つのことわざにまつわる創作落語4話と、巻末に作中登場する、ことわざ、四字熟語、慣用句などをまとめた「おまけのことわざ笑辞典」を収録。齊藤洋の自在な語りと、陣崎草子のパワフルなさし絵が楽しい、『らくごで笑学校』『らくごで笑児科』につづいての第三弾。

【図書館員からのコメント】

落語とことわざの両方が楽しめる、正に一石二鳥の本です。



・『ガラパゴスに木を植える 世界自然遺産第一号を守れ！』

藤原幸一文・写真/岩崎書店

【内容紹介】

著者は20年以上現地に通り、'07年から原生林復活の植林を行っています。ガラパゴス諸島で自然破壊が進んでいるからです。

【図書館員からのコメント】

原生種の植物を植え、森や生き物を守り続けるプロジェクトを紹介します。地球環境について考えてみましょう。

高学年（5・6年生向け）



・『8分音符のプレリュード』

松本祐子 作/佐竹美保 絵

小峰書店

【内容説明】

かなみは吹奏楽部でフルートを吹いている。大会での入賞を目指して特訓中だ。そこへ有名な天才ピアニストだった転校生の透子が来て、学校に慣れるまでかなみが面倒をみることになる。透子は怪我をして音楽専門の学校から転校してきたのだった。

第55回課題図書

【図書館員からのコメント】

本当の自分や友だちってなんだろう。悩んだ時に読んでみませんか？



・『イワンの馬鹿』

レフ・トルストイ 著/北御門二郎 訳/

あすなる書房

【内容紹介】

イワンとその兄弟を仲たがいさせようと悪魔たちが画策するが、一方イワンは…。トルストイ民話の代表作。

【図書館員からのコメント】

イワンは本当に愚かなのでしょうか。みなさんはイワンのような生き方に共感できるのでしょうか。